第 2018-14 号

恵みと真理のニュース

2018 年 4 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

交通事故で意識不明状態だった息子に治療の奇跡を与えてくださり、主の事に力を尽くす幸せな家庭になるようにしてくださった神様に感謝します

私はキョンナンのミルヤンで３男１女の長男で生まれました。儒教の伝統と慣習を重視する宗家の長孫なので、幼い時からおばあさんをついてお寺も通いました。家族と離れてプサンで高校を通ってデクで大学を通いました。軍隊を除隊してから職場に通うとき出会った妻が私を伝道しました。
 スワンで新婚生活を始めて恵と真理教会のスワン聖殿に通い始めました。私は主日にも職場に行く時が多かったし、信仰がなかったので妻が家で区域礼拝をささげるのも不機嫌でした。妻は断食して祈りながら私が神様を信じて信仰生活をするよう頑張りました。私はたまに教会に行って、教会に行っても礼拝より三人の子供と妻と共にいるのが好きでまた、宣教会で外国語を習うのがもっと楽しかったです。妻は早く区域長の職分を受けて教会の礼拝と集いに休まず参席し幼い子を背中に背負って熱心に奉仕して伝道をしました。私はそんな妻の姿が嫌でしたが、一方では家族のため熱心に伝道して自分の体のように区域聖徒達を見守る姿が偉いと思いました。
３０代後半に職場をスワンからインチョンに移して引っ越しをしました。私はたとえ信仰があまりなかったですが妻は相変わらず信仰生活をよくするように助けたかったです。それで、インチョンも我が教会の聖殿があるかと調べて会社が通う路線まで確認した後、ブピョン聖殿の近く引っ越しをしました。引っ越しをしても一時期は妻の手に導かれ仕方なく礼拝に参席して、たまには会社の集まりや仕事があると言い訳をして礼拝に参席しなかったです。週末に妻が家で区域礼拝をささげると休むのにざまになると嫌だと表現もしました。
そんな状況である主日でした。礼拝を終えて教会を出ましたが、案内する執事が“次の主日は私達と共に昼ご飯を食べて事務室でお茶でもして行きましょう。”と誘いました。一回二回は断りましたが仕方なく男性奉仕連合会の集いに参席しました。続いて男性区域礼拝も参席しました。みんな職場と家庭のことで忙しいのに夜遅い時間でもみんな集まって礼拝をささげるのが驚きました。職場と家庭の様々な難しい問題をもって共に神様の助けを求めながら、切に祈りお互いの信仰を励まして祝福する姿で大きく感動を受けました。私はもっと主と近くなり男性区域礼拝がある日は職場でも人々の顔色を見ないで礼拝時間にあわせて退勤をするほど変化されました。男性団合礼拝も休まず参席しました。
そのように熱心に礼拝をささげて、聖徒達と交わりながら日々信仰が成長して発展しました。水洗礼を受けて執事の職分を受け男性奉仕連合会に属して奉仕しました。伝道部に入って家庭と事業場と病院で伝道しながら貧しくて病弱な方々に会って彼らのために祈って仕える仕事をし最も神様の恵みと愛を感じ常に神様に感謝するようになりました。私のような者を救ってくださり、神様の子供として新たに生まれ変わってくださった主を愛する心で教会を愛するようになりました。そして、奉仕する仕事を探して教会で事務室、トイレ、廊下の掃除を始めました。先週一週間世の中で過ちをしたのを赦してくださり、汚い物がついたのをきれいにしてくださるのを願う心で奉仕を始めて今まで聖殿の底を掃除しています。
私が40代前半の時 IMF事態があって私の家庭も経済的に苦難を経験しました。会社が苦しくて仕方なく名誉対象をしました。新しい職場に入りましたが、そこも給料をもらえないほど状況が苦しかったです。子供と妻にすみなかったです。結局、妻も訪問教師の仕事をしながら共働きました。それでもすぐ、生活良くならなくて3年間、貧しい生活が続きました。心がつらい中で主日礼拝で党会長の牧師の説教御言葉が大きい慰めになり力になりました。御言葉に感動され新たな心と覚悟でもっと熱心に信仰生活をしました。妻は以前のように区域長の職分に全力を尽くしました。私もさらに祈って熱心に礼拝して奉仕をしました。すると神様は私たちを助けてくださって福を与えられました。職場で多くの仕事ができて貯蓄までしてアパートも分譲をうけました。私はもっと勉強をして博士をとって大学教授で働くようになりました。娘も神様の恵みでソウルの有名な音楽大学に進学しました。どんな苦難が来ても熱心に祈って忍耐すると神様の御言葉の通りに生きると神様が助けてくださるのを深く体験しました。私は按手執事の職分まで受けました。
しかし、時間が立つと私はまた世の事に縛られました。御言葉を黙想したり、祈る時間は減って代わりに会社の仕事と集まりに熱中して会食も休まなかったです。すると逆境と苦難が重なりました。ブタンガスをいっぱい乗せたアパート地下にくだっていたトラックでガスが爆発する事故が起こていっきに地下1, 2階にある自動車が火に燃えてその火が上に上がって2階に住んでいた私たちは後ろのベランダを通して急いで脱出しなければいけなかったです。神様は家族の命を守ってくださり、火災とその鎮圧過程で家が大きい被害を受けなくように保護してくださいました。私は神様に感謝しながら、私の不従順を悔い改めました。かてて加えて創業した娘が大きい苦難を受けて辞めました。
それだけではなかったです。高校2年生だった息子が交通事故にあって植物人間のようになってインチョンキル病院に入院しました。息子は一か月間集中治療室で体は全く動かなく意識不明状態で横たわっていました。“神様！私の罪と過ちを赦してください。息子を治してください。生きてくだされば主が願う事に私のすべての力を尽くします。”私たちの家族は病院にある祈り室で泣きながら神様に切に祈りました。教区長を通して当会長の牧師に祈りをお願いしました。
その時が2006年度でした。当時、教団統合に関連したことである時より忙しかった当会牧師が電話で私たちを慰めてくださり、息子のため祈ってくださいました。そして次の日に病院に来られ集中治療室にいる息子に按手祈りをしてくださいました。私の夫婦にも良い御言葉で慰めと力をくださいました。奇異に息子の意識が回復されました。目の前が見えて指を動かして一週間後一般病室に移す驚くな奇跡が起きました。ハレルヤ。
息子が回復する間、妻は予定の通りマレイシア宣教地で奉仕活動をしに行って献身し息子のため祈りました。そうするうちに空気マウスを噛んですぐ壊れるほど傾いていた息子が正常に正しく立つ奇跡が起きました。私たちの家族は神様の恵みと愛に感謝しながら平日礼拝をささげもっと祈りに力を尽くす生活をするようになりました。
私はいつも主と共にいて主を喜ばせる生活をするように努力しています。毎日、家を出るとき祈って、地下鉄の中やバースの中でも祈って、仕事をしながらも祈って、帰宅しながらも神様に祈っています。そんな私と私の家庭に神様は限りない福を与えてくださいます。神様の恵みで長女はカナダで結婚して職場で勤務している二番目の娘もそこで大学をよく終えました。息子も神様が早く健康を回復させてくださいました。息子が大学を卒業してからすぐ、我が教会のミャンマー宣教地に行って宣教士を助けてミャンマー福音化のため働いています。私たちの家族に世の中で生きながら経験するどんな艱難や逆境を乗り越える強い信仰を下さり、ただ主だけ見上げ天国の希望して主と近づく幸せな人生を導いてくださった神様に感謝します。天国に行く日まで主を愛し真面目で忠誠した主の働き人として生きます。このすべての栄光を主にささげます。

［信仰コラム］　信仰生活を何でそんなに難しくしますか！

＂狭い門からはいれ。滅びにいたる門は大きく、その道は広い。そして、そこからはいって行く者が多い。...＂（マタイによる福音書 7:13、14）

＂信仰生活を何でそんなに難しくしますか！＂この言葉は不信者が信者に話す言葉ではありません。礼拝と奉仕に励みながらイエス様以外には救い主がないと信じる人に向いて他の信者がこれを気の毒に思って話した言葉です。このような言葉がいかに愚昧な言葉であるかについて、正しい信仰生活について調べてみます。私達が義人になって神様の子になるのはとても容易いです。
そのことは私達がすることができないことだからです。人間の行為としては罪人という本質を解決できません。なので義人になって神様の子になるのがとても容易いです。これは驚くべきな逆説です。このようなことがいかに可能ですか？その答えはイエスキリストの中にあります。人間は全的に腐敗して堕落し、神様の公義の審判を受けて刑罰に処されなければならない存在です。このような人生を救うために神様がイエスキリストによる救いの恵みを施してくださいました。キリストイエスの中にいる者は定罪を受けません。罪がない者であるからではなく、神様から罪の許しを受けて正しいという判決を受けたからです。
義人になって神様の子になった人々は難しくて、しんどく信仰生活するのを覚悟すべきです。
神様の子として生まれる前と後の差は求めるのが異なります。考え方が異なります。神様の子になった人は魂のことを考えて、神様の子ではない人は肉親のことを考えます。魂のこととは具体的に礼拝と福音伝播を中心に全てのことを計画して行うことを言います。肉親のこととは人本主義で行うことを言います。一身上の栄達だけを願って、人間の名のために全てのことを計画して行います。神様の子は神様から相当な相続を受けます。とこしえの命と復活と天国そして、賞を受けます。義人のように、神様の子のように生きていくのは難しくてしんどいことです。しかし、価値があって甲斐のあることです。お祈りに励んで、集まることに励みながら聖徒達を手伝うために励んで福音をのべ伝えるために励み、主のことに励むべきです。
神様が人の罪悪が多く、その心に考える全ての計画が常に邪悪なことを見られこの世を洪水で審判なさることを定められました。そのような人々の中で神様に恵みを被った人がいました。その名はノアです。ノアは当代に正しい人として不都合なことがなく、神様と同行しました。ある日、神様がノアに重大な発表をなさいました。洪水審判を予告なさって箱船を造るよう指示なさいました。
神様の約束と指示を受けたノアは人々の嘲弄と避難にも関わらず、従いました。長い年月にも疲れずに従いました。彼は難しくてしんどい狭い門と狭窄な道を選択しました。箱船が建造されたある日、神様がノアに＂あなたと家族とはみな箱舟にはいりなさい＂と言われました。まだ雨が降らない中、ノアが息子と妻、嫁と一緒に箱船に入りました。とうとう猶予なさった七日が経ると神様が直接箱船の門を閉じられました。全世界は水に沈まれて神様の御言葉を不信して逆らった者達は皆水に溺れ死にました。ペテロの第一の手紙 3 章 20 節に＂これらの霊というのは、むかしノアの箱舟が造られていた間、神が寛容をもって待っておられたのに従わなかった者どものことである。その箱舟に乗り込み、水を経て救われたのは、わずかに八名だけであった。＂と記録されています。
主が再臨なさる日が近づくほど、狭い門と狭窄な道に行くのをより深く実感するでしょう。信仰生活がより難しくしんどいでしょう。しかし、狭い門と狭窄な道で行く聖徒達は難しくてしんどい信仰生活をするとしても＂信仰生活を何でそんなに難しくしますか！＂と話す人は知らない喜びと甲斐を感じます。このような喜びと甲斐はこの世が与えることができず、奪うことができないことであります。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

ペテロの拒絶と主の叱責とさとし

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

もしイエス様が来られ、あなたに直接に何を下さるか、要求された場合に、どのように行動しますか？すぐに「ありがとうございます。」「はい、そうします」と言って素直に応じることです。ところが、イエス様の弟子たちの中でペテロは、ユニークなところがありました。彼はイエス様の予告する言葉や行ったこと、あるいは指示や要求について自分の意見との意志を確実に表わしました。異議を唱えたり、あるいは拒む意志をためらいなく表明しました
しかし、私たちが知っておくべきことがあります。ペテロのような態度がイエス様への不信や逆らう精神から出てきたわけではなかったという事実です。イエス様のために刑務所に行くか、死ぬことも辞さない決意をしていました。イエス様が尋問を受ける現場では、あまりにも恐れていたので決意どおりに行動していなかったが、イエス様を信頼して愛する心は変わらなかった。今日は、イエス様がなさることや要求に対して、ペテロが婉曲に拒む意思を表明した事件を調べてみましょう。拒否したという表現より譲ずるのが、より適切な表現だろう

第一は、ヨハネ による福音書 13 章に記録された事件です。

ユダヤ人の 3 大祭りの一つである過越祭の前日の夜、イエス様は十二弟子たちと一緒にエルサレムのある家の屋根の部屋に集まって夕食をしていました。その時イエス様が突然席から立ち上がって上着を脱げにくくタオルを取って、腰に巻いた。そしてたらいに水を入れて、弟子たちの足を洗い、タオルで拭くことを始めました。その場面が記録されている　ヨハネによる福音書には**「過越の 祭の 前に，イエス は， この 世を 去って 父のみもとに 行くべき 自分の 時がきたことを 知り， 世にいる 自分の 者たちを 愛して， 彼らを 最後まで 愛し 通された」（ヨハネ による福音書 13：1）**と記録されています。そして自分の順番になると拒絶するペテロと叱責するイエス様が互いに交わした話が記録されています。その会話の中で貴重なメッセージがあります
第一の会話はこうします。
イエス様が弟子たちの足を洗い始めてペテロに言いますとペテロがイエス様に向かって、「主よ、主は私の足を洗ったのですか？」との拒むの意志を示します。イエス様は答えて″私がすることを、あなたは、今知らないものが　以後は知っている。としました。今、イエス様が行なわれることが何を意味するのか、ペテロが悟って確認するのは、聖霊の降臨を待たなければなりませんでした。**「 しかし， 助け 主， すなわち， 父がわたしの 名によってつかわされる 聖霊は， あなたがたにすべてのことを 教え， またわたしが 話しておいたことを， ことごとく 思い 起させるであろう」（ ヨハネによる福音書 14:26）**と言われたように、聖霊様の助けと教えがあった後に、ペテロが悟りました
第二の会話はこうします
ペテロがイエス様に向かって**「わたしの 足を 決して 洗わないで 下さい 」 イエス は 彼に 答えられた，「もしわたしがあなたの 足を 洗わないなら， あなたはわたしとなんの係わりもなくなる 」と**しました。神がなさることや要求について、あなたは拒絶する意思を表現することがあっています。いくら純粋な心で意思を表現しても、主の要求に対して拒絶する意思を示すものでは、主を敬い敬い恐れる心から出た行為とはできません。私たちが取る態度は謙遜に従うことの必要があります。イエス様とは無関係な人生よりも悲惨な人生はありません。 「私はあなたを洗わなければ」となりました。ここで洗いは「罪の洗い」を象徴的に表現したものです。 テトスへの手紙 3 章 5 節に記録されることを**「わたしたちの 行った 義のわざによってではなく， ただ 神のあわれみによって， 再生の 洗いを 受け，聖霊により 新たにされて， わたしたちは 救われたのである 」**しました
第三の会話はこうします。
シモン・ペテロが態度を 180 度変えて **「 シモン・ペテロ は イエス に 言った， 「主よ， では， 足だけではなく， どうぞ， 手も 頭も イエス は 彼に 言われた，すでにからだを 洗った 者は， 足のほかは 洗う 必要がない． 全身がきれいなのだから． あなたがたはきれいなのだ． しかし， みんながそうなのではない 」と**しました。ここで、悔い改めを非常に重要な真理が明らかにされました。救いに至る悔い改めがあります。この悔い改めは洗いの悔い改めとすることができます。自分が罪人であり、人間の途方としては、罪を解決することができないことを認めて、イエス・キリストが私たちの罪を贖いされたことを信じることが救いに至る悔い改めです
そして、神の子どもらしく生きるための悔い改めがあります。この悔い改めは足を洗う悔い改めとすることができます。 洗ったのは、イエス・キリストを信じてあがないを受けて生まれ変わった人になって、神の子供になった状態を意味します。足を洗うことは、すでに救われた者が神のみ旨に従って行わないで、神の栄光を覆ったからの悔い 改めです。洗いをしたとしても、外出したが戻ると再び足を洗うように生まれ変わった信徒たちでも、この世で生きながら聖徒らしく行わないことがあります。そんなことを悔い改めします。悔い改めはこう二種類です。救いに至る悔い改めと神の子どもらしく生きるための悔い改めです

第二には、 使徒行傳 10 章に記録された事件です。

ペトロが異邦人の百卒長コルネリオの招待を受け、カイザリヤを訪問された事件です。コーネリアスは祈りと救済に努めるだけ神を敬い恐れる信仰が深いでした。
コーネリアスは、自分だけでなく、家族のすべてを神を敬い恐れる者としました。ある日、コーネリアスは祈りの中で神の天使が現れ、彼に指示する幻想を見ました。天使はコーネリアスにヨッパのペテロに人々を送って家に招待するように指示しました。コーネリアスは、遅滞なく使用人の二人と軍人をヨッパに送りました
コーネリアスが送れた人々がヨッパに到着した頃でした。ペテロが祈る中で奇妙な光景を見ました。
天が開き四隅がつながれた器のような風呂敷が降りてきた、その中に、律法に食べることができないように規定されている種類の動物が含まれていました。それから **「 そして 聲が 彼に 聞えてきた， ペテロ よ． 立って， それらをほふって 食べなさい 」**という声が聞こえました。ペテロは、**「 ペテロ は 言った， 「主よ， それはできません． わたしは 今までに， 清くないもの， 汚れたものは， 何一つ 食べたことがありません」**と断った。すると第二の音声が聞こえました 「 **主よ， それはできません． わたしは 今までに， 清くないもの， 汚れたものは， 何一つ 食べたことがありません 」**としました。このようなことが 3 回あった後、すぐに天に上げられました。ペテロは、この奇妙な幻想が何を意味するのかを知ることができませんでした。途端にコルネリオが送られた人々がペテロを見つけました。そして、聖霊がペテロに指示されました。**「 ペテロ はなおも 幻について，思いめぐらしていると， 御靈が 言った， 「ごらんなさい， 三人の 人たちが， あなたを 尋ねてきている　さあ， 立って 下に 降り， ためらわないで， 彼らと 一緒に 出かけるがよい． わたしが 彼らをよこしたのである 」と**しました。コルネリオが人々を送ったのに、聖霊は「私は彼を送った」となりました。ペテロはコルネリオが送った人々と一緒にカイザリヤに行きました
コーネリアスの家に入るとコーネリアスが一家と親しい友人までも集め待っていました。コーネリアスはペテロに**「 それで， 早速あなたをお 呼びしたのです．ようこそおいで 下さいました． 今わたしたちは， 主があなたにお告げになったことを 残らず 伺おうとして， みな 神の　み前にまかり 出ているのです 」**．″しました。ペテロは集まった人々に福音を伝え始めました。神はイエス・キリストを生者と死者の裁判長として定めされたということと、イエス・キリストの名前の力を負って人々が罪の赦しを得ることを言いました。ペテロがまだこの言葉をしている時、聖霊がその言葉を聞くすべての人々にあふれました。ペテロは、コルネリオの家に集まった異邦人が、自分たちのように、聖霊を受けるのを見て、神が彼らを救ってくださったことを知りました。彼らにも洗礼を施しました。ペテロはユダヤ人と異邦人に福音伝道の最初の門を開く役割をしました
今日はペテロが主がなさることと指示に対して婉曲に断る場面と主が彼らを訓戒される場面とペテロが訓戒を受け入れて従う場面を見てみました。ペテロが「主」と呼び、イエス様の要求のどおりに行なうことを拒絶したのは、矛盾して二律背反です。ペテロがこのような行動をするようになった原因は何ですか？非聖書的な偏見、誤解、先入れ観念、固定観念からです。共産主義の思想を受け入れながら、クリスチャンと自称する人、宗教多元主義を受け入れながら、クリスチャンと自称する人、不義で欺瞞する人々を擁護しながらクリスチャンと自称する人がいます。このような人々は、なかなか聖書に記録された警告を受け入れません。心がかたくなな軟膏です

ペテロは誤解と偏見を持っているが、心がかたくなになりませんでした。ペテロは、イエス様の叱責とさとしを聞いた瞬間、すぐに悔い改めました。自分の考えや観念との主張が聖書に反することが発見されると、すぐにこれを捨てる溶断を下す人は、主の愛と認められるようになります。